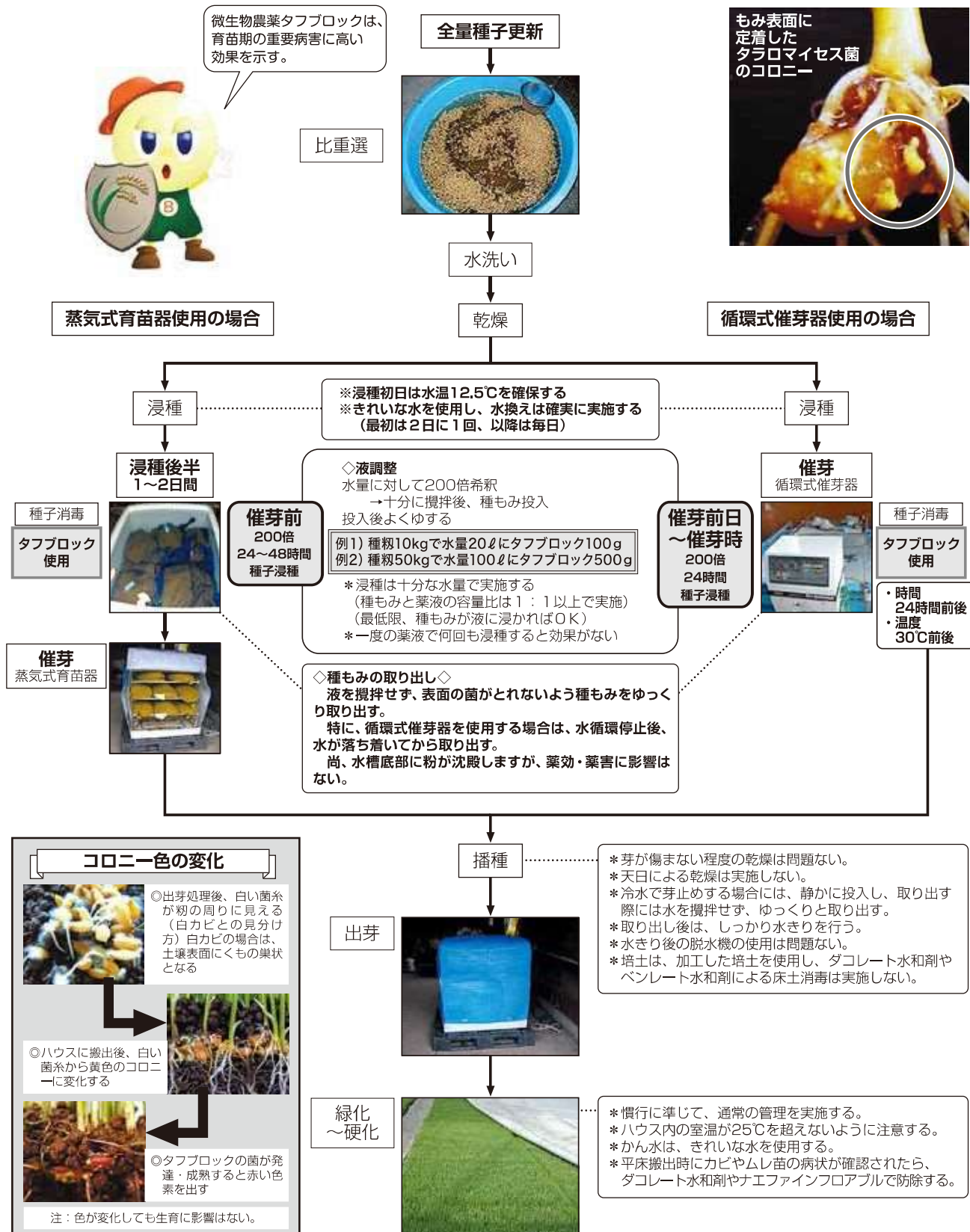


◇タフブロックの上手な使い方（種子消毒）

◆タフブロックを使用する場合は、モミガードC水和剤やダコレート水和剤、ベンレート水和剤を使用しない!!

特徴

タフブロックはもみ表面にタラロマイセス菌を付着増殖させ、病原菌の侵入を防ぐ微生物殺菌剤である。稲などの作物に対し寄生性・病原性がなく、苗の生育に悪い影響を与えない。尚、使用回数に制限がなく農薬成分としてカウントされない。ナエファインフロアブル、カスミン液剤との併用は可能である。
※直播・無加温育苗・ワリフ育苗や床土に山土を使用する場合は、使用しない。



【湛水直播】鉄コーティング中における塗沫処理

コーティング機を用いた作業手順

種子処理剤の薬量（種もみ 20kgの場合）

ルーチンシードF S 160ml
エバーゴルシードF S 200ml

薬剤および薬剤処理済み種子を扱う際は、保護衣、保護メガネ、農薬用マスク、不浸透性手袋を着用すること。



鉄コーティング中における種子処理手順

1 種子処理剤を計量、調合する

同一計量カップ内にそれぞれの種子処理剤を計量し、均一に混ざるまで攪拌する。

2 水を噴霧し、種もみを湿らせる

最初の鉄粉がつきやすくなるように、水を噴霧し、種もみを湿らせる。

3 鉄粉を投入する

種もみ上に鉄粉4分の1程度を振りかけていく。鉄粉投入後、へらでまんべんなく混ぜ合わせる。

4 種子処理剤の投入する

①で調合した種子処理剤を3分の1程度投入する。薬剤投入後、へらでまんべんなく混ぜ合わせる。

5 鉄粉、種子処理剤を交互に投入

鉄粉、種子処理剤を3回程度に分けて投入することできれいに造粒できる。

6 焼石膏を投入する。

鉄粉、種子処理剤をすべて投入後、鉄粉表面を少し水で湿らせ、焼石膏を投入し、へらで混ぜる。

7 酸化、乾燥させる

シート、育苗箱上に処理済み種もみを日陰で薄く広げます。2、3日おきに一週間散水して酸化させる。散水後軽くかき混ぜると良い。さらに一週間乾燥させて完成。

上手に仕上げる POINT

④、⑤で必要に応じて適宜加水する。
(注)薬剤と水の総量は、約60ml/kg乾もみが標準最大量。
* 天候やもみの濡れ具合で適切な加水量が変わる。薬剤と水の総量は、濡れ具合等の条件により30～60mlの範囲を目安とすること。

天候条件等により、水噴霧に代えて種子処理剤で種もみを湿らせる。

種もみが湿ってくると、ドラム全体に種もみが広がる。

ドラム壁面に鉄粉が付着すると、鉄粉の造粒ロスにつながる。

ドラム壁面に種子処理剤が付着すると付着ロスとなる。

ダマを作らないよう、よくかき混ぜる。

種もみの温度上昇による発芽不良を防ぐため、酸化、乾燥時は必ず日陰で、薄く広げて行う。
十分に乾燥後、低温管理された種子庫で約6ヶ月保管可能。

必ず薄く広げて陰干しをする。

カルパー直播処理に関する問い合わせは、担当営農指導員まで